

第36回蒲郡市地域公共交通会議 議事録

- | | | | |
|---|-----|------------------------------|------------|
| 1 | 日時 | 令和4年9月26日（月） 午前10時30分～11時30分 | |
| 2 | 場所 | 蒲郡市役所 本館 303会議室 | |
| 3 | 出席者 | 委員 愛知工科大学機械システム工学科教授 | 村上新 |
| | | 委員 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授 | 松本幸正 |
| | | 委員 愛知運輸支局 | 山内三奈 |
| | | | (代理 本田慎一郎) |
| | | 委員 愛知県都市整備局交通対策課 | 大林益英 (欠席) |
| | | 委員 総代連合会会長 | 細井政雄 |
| | | 委員 形原地区公共交通協議会 | 天野忠則 (欠席) |
| | | 委員 東部地区公共交通協議会 | 小田繁男 (欠席) |
| | | 委員 西部地区公共交通協議会 | 杉浦吉昭 |
| | | 委員 三谷地区公共交通協議会 | 廣中康人 (欠席) |
| | | 委員 大塚地区公共交通協議会 | 小田眞一 (欠席) |
| | | 委員 蒲郡市身体障害者福祉協会 | 金沢孝一 |
| | | 委員 蒲郡市老人クラブ連合会 | 白石よね子 (欠席) |
| | | 委員 蒲郡市社会福祉協議会 | 鵜飼秀好 |
| | | 委員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 | 牧原延明 (欠席) |
| | | 委員 NPO法人ブックパートナー | 新井麻利子 |
| | | 委員 蒲郡市ボランティア連絡協議会 | 藤田智江 |
| | | 委員 蒲郡市子ども会連絡協議会 | 鈴木照江 |
| | | 委員 蒲郡商工会議所 | 小池高弘 |
| | | | (代理 青木宣貴) |
| | | 委員 蒲郡市観光協会 | 杉山和弘 (欠席) |
| | | 委員 名鉄バス株式会社 | 大野淳 |
| | | 委員 豊鉄タクシー株式会社 | 長縄則之 |
| | | | (代理 岩原誠) |
| | | 委員 株式会社かね一自動車 | 天野成美 |
| | | 委員 名古屋鉄道株式会社 | 花村元気 |
| | | | (代理 内藤杏) |
| | | 委員 公益社団法人愛知県バス協会 | 小林裕之 (欠席) |
| | | 委員 愛知県タクシー協会 | 深谷克巳 (欠席) |
| | | 委員 愛知県交通運輸産業労働組合協議会 | 壁谷政志 |
| | | 委員 愛知県蒲郡警察署 | 田中祥浩 |
| | | 委員 東三河建設事務所 | 高橋秀明 (欠席) |
| | | 委員 蒲郡市長 | 鈴木寿明 |
| | | 委員 蒲郡市市民生活部長 | 飯島伸幸 |

事務局 蒲郡市交通防犯課長
蒲郡市交通防犯課係長
蒲郡市交通防犯課主事

鳥居昭裕
伴文明
石川雄策

地域公共交通計画推進事業受託事業者 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 1名

4 議題

(1) あいさつ

5 報告事項

- (1) 蒲郡市内公共交通の利用状況について・・・・・・・・・・【資料1】
- (2) 西浦地区支線バス事業について・・・・・・・・・・【資料2】
- (3) 交通空白地対策の取組みについて・・・・・・・・・・【資料3】
- (4) 公共交通ネットワーク再編検討調査について・・・・・・・・・・【資料4】

6 その他

7 議事内容

(1) 開会

- ・ 出席委員が19名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域公共交通会議設置要綱第7条第2項の規定により会議が成立すること、本日の会議が公開となっていること及び地域公共交通計画推進事業受託事業者として三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社に参加していただいていることが事務局より報告された。また、臨時で会議を開催した趣旨について、今後新たな事業を進めるにあたり報告をしておくためとの説明がされた。

(2) 議題

ア あいさつ

蒲郡市長より、本日は協議事項はなく、報告事項として、公共交通の利用状況について、西浦地区支線バス事業、交通空白地対策の取組みについて、公共交通ネットワーク再編検討調査についての4件を予定している。

それぞれのお立場から積極的なご意見をいただき、よりよいものにしていきたい。どうぞよろしくお願いたしますとのあいさつがあった。

(3) 報告事項

- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

ア 蒲郡市内公共交通の利用状況等について

- ・ 事務局より資料1に基づいて報告が行われた。

[質 疑]

なし

イ 西浦地区支線バス事業について

- ・ 事務局より資料2に基づいて報告が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 地域の協議会で検討が進んでいると報告は受けている。

経路、停留所等の検討も進められているようだが、弊社は参加できていない。競合するものとなり、事業者と調整できない、後に引けないといったものにならないように進めていただきたい。密に情報提供いただけるようお願いする。

(事務局)

- ・ 密に情報提供をし、伺った意見については地域の協議会にも伝え、密に調整をしながら進めさせていただきたい。

(委 員)

- ・ 事業者の運行されているエリアなので慎重に協議を進めてほしい。本日の資料ではルート等は分からないが、事業者に詳細な情報を提供いただければうまく調整できるかもしれない。既存路線が無くならないようにすべきなので、慎重に議論を進めてほしい。

(委 員)

- ・ 現在幹線バスがある場所に地元の路線が入ることになる。うまく調整し、競合ではなく協調していただいて、全体で良いものとなるよう進めてほしい。

- ・ 支線バスだけで議論されてしまうケースが多いので、今ある資源をうまく活用いただくように、事務局でうまく導いてほしい。

(事務局)

- ・ ご意見をふまえて、よりよい事業とできるよう丁寧に進めていきたい。

ウ 交通空白地対策の取組みについて

- ・ 事務局より資料3に基づいて報告が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ これまでは交通空白地で地域の協議会を設置し、路線等が検討されて徐々にネットワークが形成されてきたというのが蒲郡市の特徴である。今回の北部、塩津地区の取組みはこれまでと異なるので、その点を説明いただきたい。

(事務局)

- ・ 地区協議会での検討により、5つの地区において支線バスの運行を開始できたことで、市内の交通空白地は概ね解消できてきた。

しかし、北部地区などは交通空白地として残ったところになり、これまで通り地区において協議組織を作り事業を進めていくのは難しく、同様の検討では交通空白地の解消が進まない状況となっている。

(委 員)

- ・ 北部地区などは、地区の規模感などから協議会を設置して進められないような場所であり、これまでのやり方では交通空白地の解消は進められないため、行政側で対応

して空白地をカバーするものと理解した。

- ・ 塩津地区は、西部地区から延伸するというありがたい話であるが、路線が延長することで利用者にとって不便になり、利用者が減ってしまうことにならないか。利用者の意見を確認しているか。

(事務局)

- ・ 西部地区内の利用がまだ少ない状況であり、新たな利用者を取り込むことで利用が伸びると期待している。

(委員)

- ・ 期待される一方、現状利用されている方が不便になり、利用が減ることが懸念されるので、しっかり利用者の声を聞きながら検討して行ってほしい。
- ・ 北部地区は、タクシーの活用で実証実験を検討するという理解で良いか。タクシーの活用はほかでも検討が進められているので、4条の乗合事業に限らず、タクシー活用を含めていろんな方式の中で検討を進めてほしい。

(委員)

- ・ 行政サービスとして検討していくと理解したが、地元のニーズはあるのか。

(事務局)

- ・ 地元からの声はある。市長への手紙という投書を受け付けているが、その中に北部地区でも移動サービスが欲しいという意見が度々ある。また、事務局に対しても地元から要望意見を頂戴している。

(委員)

- ・ 地元の声を聞き、適切なサービスの提供をお願いする。引き続き、会議にて検討状況を教えていただきたい。

(委員)

- ・ デマンド型の検討について、路線バスへの乗り継ぎ手段として検討されているとのことで、路線バスへの接続がうまくいけば利用増になる。一方で、直接市民病院などに行けるようになると競合の可能性もあるので、引き続き情報提供をお願いしたい。

(委員)

- ・ これからデマンド型の具体的な停留所などの検討を進めるため、引き続き情報提供をさせていただく。

エ 公共交通ネットワーク再編検討調査について

- ・ 事務局より資料4に基づいて報告が行われた。

[質疑]

(委員)

- ・ これまでの事業は公共交通計画に基づき進めてきた。支線バスについても公共交通計画に定められた上で事業化され、運行されてきたものであり、非常に唐突に感じる。
- ・ ただ、唐突感を感じるものの必要性も理解できる。交通ネットワークが概ねできてきたところでコロナの影響もあり、利用が伸び悩んでいる。名鉄西尾・蒲郡線では、高校生の通学も戻ってこないかもしれないし、通勤では自動車に切り替えてしまった

ケースもあるかもしれない。交通再編の必要性も理解できるので、検討をするのであれば、公共交通計画に位置付けて進めるべきで、必要に応じて計画の見直しをして、国の支援を得られるようなら得ながら進めるべきである。交通会議の場で適切に議論しながら進めるべきだと思う。

(事務局)

- ・ 事務局は検討の必要性について問題認識として持っていると感じたい。また、調査を進めるにあたっては、交通事業者の協力が必要であり、協力を得ながらより良いものにしていきたいと考えている。そのため、本日は、調査の必要性、問題認識をあらかじめ共有いただきたく報告をさせていただいた。

(委員)

- ・ 具体的な調査内容、予定などを教えてほしい。

(事務局)

- ・ 具体的な内容、スケジュールは未定。これから予算確保を進めていく。

(委員)

- ・ アンケートやOD調査などを行うのか。

(委員)

- ・ アンケート調査などは考えているが、予算確保を進めながら具体的な内容はこれから検討していく。

(4) その他

(委員)

- ・ 介助者無料の取り扱いについてはどのようなか。また、障がい者手帳などの提示が必要か。

(事務局)

- ・ 介助が必要な方と介助者についてはセットとして理解し、介助者1名分が無料となる。手帳の提示をしていただくと判断が付きやすいのでありがたいが、提示を条件にはしていない。所持していない場合でも介助が必要な状況から分かるので、自己申告により介助者無料とする扱いとして運用している。

(事務局)

- ・ 名鉄利用促進事業についてチラシ紹介。

(委員)

- ・ 名鉄電車&名鉄バス蒲郡シーサイドフリーパス事業について紹介。

(事務局)

- ・ 三谷地区支線バスについて、三谷祭が3年ぶりに開催され、交通規制等により区内の運行が難しいため、地域と相談した結果、10月22日(土)については運休とする。

(委員)

- ・ シーサイドフリーパスは大変良い取組み。蒲郡線でもデジタルチケットの提示で進められる。
- ・ 例えば、あじさい祭りの時など、コミュニティバスも一緒にこうした取組が進めら

れるとよい。事務局でも検討してほしい。

(市長)

- ・ 本日は丁寧なご議論ありがとうございました。いただいたご意見を今後の事業推進に活かしていく。
- ・ 特に、地元の意見を会議の場で皆さんと共有して検討すること、交通事業者との調整の重要性について再度認識させていただいた。
- ・ 私個人のことだが、市長就任時はマイカー通勤だったため、歩くことが少なく体重が増えた。形原に住んでいるが、マイカー通勤から名鉄電車通勤に切り替えたことで歩く量も増え、体重も元に戻り健康状態もよくなった。
- ・ 公共交通は、カーボンゼロ、カーボンフリーにおいても重要な取組みである。
- ・ 改めて公共交通の重要性、交通会議での協議の重要性について認識させていただいた。引き続き協議をお願いしたい。

(事務局)

- ・ 次回の地域公共交通会議は12月の開催予定との連絡を行い会議は終了した。

以上、議事の正確を証するため署名押印する。

蒲郡市地域公共交通会議委員

印

蒲郡市地域公共交通会議委員

印